

白根市公共下水道基本計画策定

平成9年度から整備事業に着手予定

市では、快適な生活環境を整備するため、平成三年度から白根市下水道基本構想を作成。この基本構想をもとに、平成六・七年度で基本計画について検討し、この三月に基本計画を策定しました。計画の概要をお知らせします。

下水道普及率 全国で51%に

公共下水道とは、家庭や工場などから出る汚水を処理する施設のこと。平成六年度末での下水道の普及率は、全国で五二%、新潟県全体で二八%となっています。県内二十市では、白根市を除く十九の市が下水道整備事業に着手しています。

平成9年度から事業着手予定

市では、公共用水域の保全と生活環境の整備を目的に平成三年から基本計画のもとになる基本構想を作成し、平成六年度から基本計画を検討。今年三月に基本計画が策定されました。この計画をもとに、平成八年度から九年度にかけては具体的な計画決定や事業認可のための作業を進め、平成九年度から事業に取り掛かる予定です。

整備事業の対象となるのは白根市全域で、計画処理区面積は一千二百三十五ha。計画処理人口は四万九千七百七人で、雨水と汚水が別々に処理される分流方式という方法が取られます。これによって、雨水は側溝や小排水路に流され、汚水は下水道管に流されることとなります。

下水道の仕組み

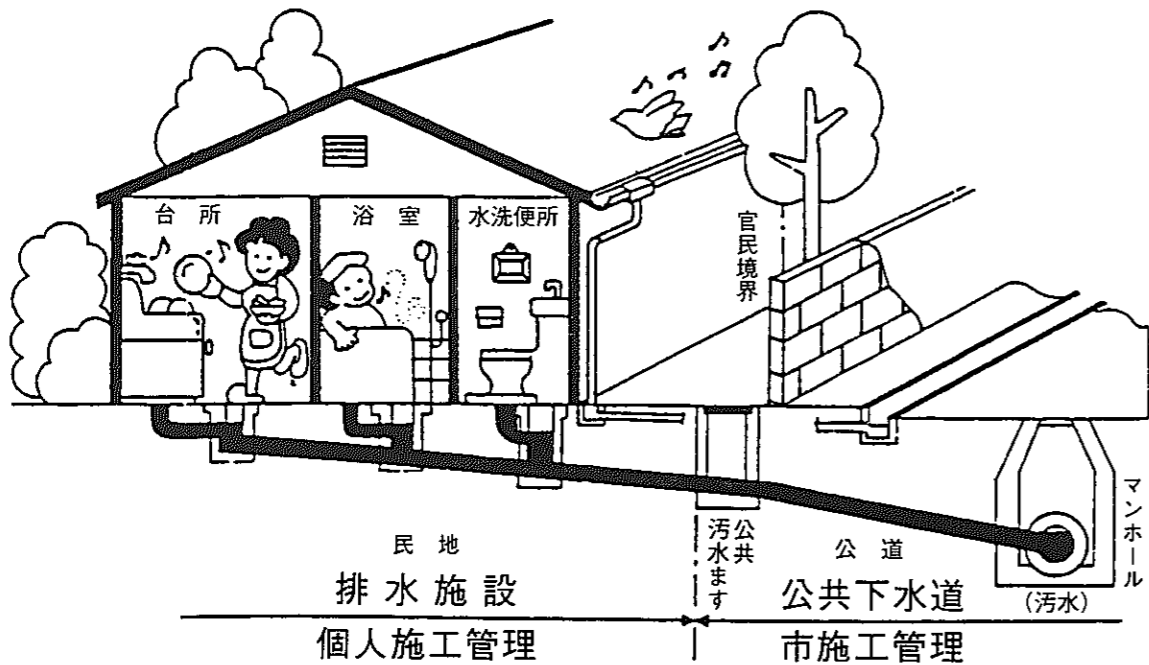
汚水がきれいになって川へ流されるまでの過程をご紹介します。

各家庭や工場などから出される汚水は、一度宅地付近に設けられる公共汚水ますに集められ、下水道汚水管へ流れます。汚水は途中、九カ所設置される予定の中継ポンプ場で汲み上げられて終末処理場へ。こうして市内のすべての汚水が終末処理場へ集められます。そこで微生物による処理などで浄化され消毒後、鷺ノ木大通川へ放流されるという仕組みになっています。

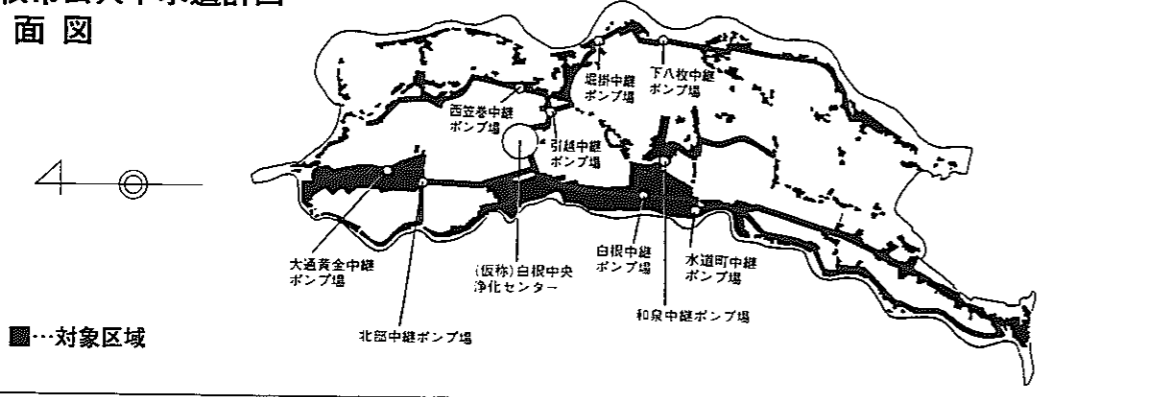
下水道整備事業には、多額の費用と年月を要します。市では、地元説明会を開催するほか、パンフレットや広報などを通じて事業についてお知らせしていきます。市民の皆さんのご理解とご協力をよろしくお願い致します。

※下水道に関する問い合わせは市役所都市整備課下水道係(☎373・2111 内395、396)へ。

下水道の仕組み



白根市公共下水道計画 平面図



平成7年白根警察署管内交通事故状況

死者7人、事故数も増加



昨年の管内(白根市、味方村、月湯村)の交通事故の状況がまとまりました(表)。人身事故発生件数、死者・負傷者数はいずれも増加。それぞれで新潟県内の伸び率を大きく上回りました。特に発生件数と負傷者数は、昭和四十八年に次ぐワースト2の記録です。

事故の発生場所は相変わらず国道8号が多く占めています。このうち重大事故が発生する傾向が高いのが下塩俣、東萱場などで、黒崎町や白根の市街地の渋滞を抜けてスピードを出したところで事故を起こしてしまうケースが目立ちました。また近年の傾向として、渋滞を避けた車が市道や村道など裏道に入り事故を起こすケースも増えていきます。

事故の原因を見ると、わき見運転が圧倒的に多く百九十六件。続いて一時不停止が十四件、信号無視が十件と運転手側の原因が多く見受けられました。一方、歩行者側の原因は飛び出しが一件あった程度で、昨年多かった直前横断や信号無視などはなくなりました。昨年は運転手側のマナーの悪さが目立った一年でした。

現代生活に自動車は不可欠です。それは私

交通(人身)事故発生状況

区分/年別	7年	6年	増減	増減率
発生件数	287	265	22	8.3%
死者数	7	6	1	16.7%
傷者数	379	334	45	13.5%

たちに多くの恩恵を与えてくれますが、大きな危険が伴うのも事実。ハンドルを握った以上、例えば相手に過失があっても、できるだけ事故を避けるのが運転手の務めです。

「相手が悪くても事故に遭わない運転」に常に安全運転を心掛けてみましょう。歩行者も規則、マナーを守って、飛び出しなどをしないようにしましょう。

初心に帰って安全運転

高齢者交通安全教室
三月三十一日、市交通対策協議会は白根中央自動車学校を借り、高齢者交通安全教室を開催しました。約五十人が参加し、自動車、バイク、自転車、歩行者の四班に分かれ受講。正しいハンドルの持ち方、早めの合図などを初心に帰って再確認しました。長生きの秘けつは健康に気を付けること、そして交通安全も！

